

ラジオ サンデーFM ブランチ

ヤスガさん 3月11日、日曜日。時刻は午前11時を回りました。

ヤスナガ マユがお届けする渋谷FMサンデーブランチのお時間です。

今日はヌクボン住まいと暮らす徹底ガイド。そして、3/10発売されました月刊情報誌ミスター・パートナー4月号から情報をお届けしたいと思います。実はお客様がたくさんお見えになっております。最初のコーナーでは、家についてお伺いしたいと思うんですけども、家を建てるのは大変ですよね？どんな会社を選んだらいいのか、そしてどんな家が出来上がるのか、やっぱり不安もたくさんあると思うのですけれども、実は家作りで成功した方にスタジオにお越しくださいました。もともとその方は自分が建てる前にお母様がその建設会社さんでお家を建てられました。その家が非常に良かったというのと、それまでたくさん勉強したことを本にされました。それを見てやっぱり家もこの家を建てようと思われたのですが、すごく住み心地が良いようです。企業の人ではなくて、実際に建てて住んでいる人の言葉を聞いていただきたいと思います。そして最後のコーナーでは家を建てた後のお話ですね。後半、今とっても大変ですけれども、そのためのお手軽ですごい機能をもったアイテム、ドアカメラというのを紹介したいと思いますので最後までゆっくりお付き合い下さい。

それではこちらのコーナーでは素敵なお客の方をお呼びしています。住まいと暮らし徹底ガイドというブック本の中でご紹介しています平山建設さん。千葉県で活躍されている建築会社さんですけれども、こちらで家を建てられた塘 浩二さん・聰子さんのお二人、ご夫婦に今、お越しいただいています。お話を色々お伺いしたいと思います。こんにちは。

塘さん夫妻 こんにちは。

ヤスガさん 今日はよろしくお願ひいたします。

塘さん夫妻 よろしくお願ひいたします。

ヤスガさん こちらですね、塘 浩二さん・聰子さんご夫妻は平山さんの所で家を建てられたということですねけれども、元々この平山建設さんに頼もうとしたきっかけとしましてはお母様の岡本陽子さんが5年前に平山建設さんでお家を建てて、そのことを本にされたということですね。『同じ人生送るならこんな家で暮らしたい』そのあたりも含めていろいろお伺いしたいと思いますけれどもお母さんがまず建てられたという事でよすね。

聰子さん そうですね。

ヤスガさん お母さんが建てられたきっかけというのはその妹さんが平山建設さんで建てられたということですね。なるほど。こちらですけれども、お母さんの妹さんが建てられてお母さんもかなり勉強して平山建設さんを選んで、そして塘さんご夫妻もこの平山建設さんでお家を建てようということにされました。どの辺に魅力を感じて平山建設さんにやっぱり家も頼もうって思われました？

聰子さん 両親の家に私たち夫婦も度々遊びに行くのですが、その時に室内温度が常に一定なことですか遮音性に優れている所等、そういう快適さと心地よさを十分体感しまして私たちも家を建てるのであれば兼ねてから平山建設さんにお願いしようと決めていました。

ヤスガさん なるほど、今おっしゃっていました、温度が一定ということですけれどもこれはやっぱり遊びに行つただけで実感できたのですか？

聰子さん そうですね。一歩入るだけで、まるっきり違いまして、あつ快適だなっていうのが玄関に入つた時点でわかりますかね？

ヤスガさん 冬遊びに行っても、夏遊びに行ってもやっぱり玄関から入つてお部屋に入つたり台所に入つたりそれでもやっぱり家の温度が一定だということですよね。普通の家に暮らしている私にはちょっと想像が付きにくい位、快適なんだろうと思われますね。実際、遊びに行って、他にどんな所で快適性を感じられました？

聰子さん あとは遮音性に優れていること。音が全くない、大きな雨戸でまるで映画を見ているような映画のスクリーンを見ているような音の無い家であること、耐震性に優れていますので、安全、安心に暮らせる。

ヤスガさん シエル太という名の通りに、関東大震災級の地震が来ても安心、そんな所ですかね。お母様が建てられたお家というのに何度も遊びに行ってやっぱり快適だと感じられたと思うのですけれども、今、シエル太という名前が出ましたけれどもこのシエル太というのがこの平山建設さんの新しい工法の名前ですよね。シエル太という名前は、例えば物騒な話ですけど戦争が起こっていても中は安全という意味合いで付けられた名前だと思うのですけれども、このシエル太という工法を実際にねお父さんお母さんがお住まいになっているお家の中で体感されたと思います。実際そのあと自分たちもこのシエル太工法というので家を建てようと思われた訳ですね。今、実際に、家を建てようと施工された訳ですけれどもその辺りの家を建てる前、建てている間などで何かエピソードなどがあれば教えていただいてもいいでしょうか？

浩二さん 自分たちの家を建てようと実際動き出した時期が、ちょうど鉄筋コンクリートマンションの耐震偽装問題の渦中で、私たちもやはり例外なく鉄筋コンクリートというものに、漠然と不安を持っていたのですが、鉄筋の組み上がった様子というのを実際に間の辺りにして、その不安が一瞬にして吹き飛ぶくらいしっかりと、びっしり配筋されていました。

ヤスガさん そうですよね。一時期、すごかったですよね。実際、塘さんご夫妻がお家を建てられてお引越ししたのは今年の一月ということですから、それはもう平山建設さんにお願いして建てている最中というのは・・・。

浩二さん 実際お話を始めてからは妻の妊娠もかさなったので全体で一年半くらいかかったんですよ。ですから本当にその真最中の頃でしたね。

ヤスガさん そうですね。ちょうど渦中でしたよね。

浩二さん そうですね。

ヤスガさん やっぱり鉄筋といえば耐震偽装、偽装されているのではないかと漠然とした不安を感じている。誰もが感じていた時期ですよね。その中で建てている現場を見て吹き飛んだ。

浩二さん 吹き飛びました。逆にびっくりしたくらいです。そんなに鉄筋が・・。ここまでやる必要があるのかというくらいで具体的には本当にビル、4.5階建てのビルが建つてしまうくらいの素人でも一目見たらわかる位にしっかりした基礎と躯体と、「これすごいなあ」と実感できるくらいで圧倒されました。

聰子さん 見に来られた方が「何、ビルの基礎？」というくらい、「ビルの基礎みたいだね」というふうにおっしゃるくらいしっかりした基礎でした。

ヤスカさん みただけでこれは違うぞとわかるくらい。ちなみにこちらのシェル太工法というのは壁じたい
もが厚いとお伺いしたのですが、どれ位の厚さですか？

浩二さん そうですね、大体30cmくらいはあったかと思います。

ヤスカさん 壁ですよね。

浩二さん 壁です。

ヤスカさん 家の周りをぐるりと囲っているあの壁が30cm。

浩二さん ですから窓の部分に関しては自然と出窓ができるんですね。

ヤスカさん ナチュラルに出窓ができてしまう。

浩二さん そうなんですコンクリートの内側と外側にさらにポリスチレンと呼ばれる断熱材が内側と外側
に張られます。その上にさらに石膏ボードが張られるので実際の仕上がりは30cmくらいあり
ますね。

ヤスカさん そうですよね。その30cmの外側にガラスが来るわけですから、内側にはその30cm近い出窓
の空間がもれなくついてくる。

浩二さん そうですね。

ヤスカさん もう聞いているだけですごく頑丈そうだなと思いますよね。では続きのお話はこの後の1コーナーで伺いたいと思います。この後は実際に生活しての感想などをお伺いしたいと思います。
みなさん引き続き、ごゆっくりお楽しみ下さい。

ヤスカさん さあ、続いてのコーナーも平山建設さんでお家を建てられた、塘 浩二さん・聰子さんご夫妻
に実際の住み心地を聞いてみたいと思います。さあそれではですね、すごい鉄骨の量であり、
壁も分厚く、出窓がもれなく付いてくる、そんなシェル太工法のお家。実際住んでみた人の言葉
というのを私たち聞きたいと思いますけれども住んでみてどうですか？

まず、一番実感というか、既に母の家に出入りしていたので実感はしていたのですが、実際に
住みだしてやっぱり保温性はすごく高いという所を…。今特に冬場ですし体感しております。
例えどんな所で？

浩二さん そうですね。まだ引っ越しして間もないこともあってエアコン設備は一切まだ設置してないです。
一応、暖房設備としては床暖房のみになります。床暖房を普段は付けていて、昼間、建物が暖
まって、更に自分たちの生活していくうえで出た熱が夜まで残っているくらいに、保温性が高
いです。ですから、自分なんかはちょっと暑がりな部分もありますので、夜なんかは暖房を一
切すべて消してしまうこともあるくらいです。

ヤスカさん 普通の家は違いますよね。

浩二さん そうですね。前の家に住んでいたときはやはりパーカーやトレーナーというのを着ていました
が、今はTシャツに部屋着、下にパンツをはいてという感じです。

3月、2月、1月を通してそんな感じのスタイルで過ごされた。今年確かに、暖冬と言われてます
が、寒かったですよね？

浩二さん そうですね。寒い時期は寒かったです。やっぱりコートを着ている日もありましたし、寒い
日に関してはいつも通りの冬だったかなと思います。

ヤスカさん 別にお家もね沖縄というわけでも無くて、千葉県の流山市。

浩二さん そうです。

ヤスカさん 別に暖かいと言われる場所ではないし。

浩二さん そうですね。閑静な住宅街になりますので比較的寒い地域になると思います。

ヤスカさん でも、昼間ちょっと床暖房をつけておくだけで夜まで熱が残っている、みなさんが動いている。

と言っても 50 人も 60 人も住んでいるわけでもなく、ご夫婦にお子さん二人ですよね。3 歳と 1 歳の娘さんと息子さん。あとは生活に使うようなガスコンロとお風呂とかそれくらいですね。

浩二さん そうですね。

ヤスカさん それで熱が溜まって夜、暖房を消しちゃう…。

浩二さん だから子供と一緒にになってちょっと激しい動きをすると汗をかいてしまうくらいだと思います。
それくらい保温性は高いと思います。

ヤスカさん 本当にすごいですね。私が想像していた以上だなと思いましたね。私、気になるのが、音を遮断する力も強いと言うことですが、どれくらいでしょうかね。

聰子さん 先月でしたか？すごい雷が、深夜に鳴りまして、私たちはもう寝ていたので全然気付かなかつたのですが、次の日にお友達が、昨日、すごかったね。雷、戦争が始まったみたいにバーンって音で家が揺れたよねとか雨戸が揺れて怖くて寝られなかつたとか、子供が泣いたとかそんな話で盛り上がっていたのでびっくりしたのですが、その時初めてそんなすごい雷が鳴ったっていうのを知って何も知らずグーグー子供と一緒に寝ていたなあ。この家っていうのはそういう音も遮断してしまうとすごく実感しました。

ヤスカさん それは別に、えらく疲れて起きられなかつたとかそういう訳ではなくて…。

聰子さん 普通の生活の中で、普通に子供もいびきをかいて寝ていました。

ヤスカさん 雷と言えばバリバリバリとかドカンとか。

聰子さん かなり大きい雷だったみたいで知らない人はいない位の…。

ヤスカさん でも知らなかつた。

聰子さん はい。

ヤスカさん 揺れもしなかつたのですよね。

聰子さん 揺れもしないし、何の音もしませんでしたね。

ヤスカさん さすがシェル太工法と言う名前にふさわしい、すごく快適そうですね。いやでもすごいですね。
まあ、そういういろんなエピソード、おもしろいエピソードもまざっていますけれども、こういった内容を塘さんご夫妻もお母さんみたいに本にしたいと思われているのですか。

聰子さん そうですね。でも、そういうことによって私たちと同世代の若い層にもまた母と違つた形で平山建設さんの建てる家の素晴らしいしさを伝えられるのかも知れないですね。

ヤスカさん でもやっぱり皆さんに伝えたいなあという気持ちちは…。

聰子さん ええ、ぜひ。母が書いた著書である『同じ人生送るならこんな家で暮らしたい』まあ、読みやすく内外断熱工法の素晴らしいしさと平山建設という会社の堅実さが良く分かる一冊なので真剣に家作りを考えている方、またこれで良いのかと迷われている方がいらっしゃったら、是非一度読んでいただいて平山建設さんを知っていただいて、この家の素晴らしいしさを知って頂きたいと思います。

ヤスカさん そうですね。実際に住んでいる人が言うからこそその説得力ってありますよね。ちなみにご夫婦

は、20代後半と30代前半で、二人の小さなお子様がいる家庭ですからね。そういうご家庭つて、やっぱりいろいろとストレスが溜まるし、お子さんもいると大変だと思うんですけれども、そんな中でもやっぱりこの気密されているというだけで快適な生活、ストレス無く送れるっていうのはいいですよね。どんなときにこの家いいなあ、どんな風にいいなあって思いますか。ストレスが無いっていうのはいいですよね。そうですね、家を建てるとき一生物ですから、これから先、お歳をとっていくってね、おじいちゃんおばあちゃんになったときにもこの家に住みたいなあという是有るのでしょうか。

聰子さん そうですね、やっぱり今は若いので特に体とか精神に対してのストレス、お歳を召した方よりも感じることは少ないと思いますけれど、長く月日を積み重ねていくとやっぱり、やっぱり違うんじゃないかなあって。この家に住んでいると100歳まで生きられるような感じがする「命の家」だなあという風に。本当、大げさじゃなく思いますよ。ひ孫の顔がみられるかなあって。

ヤスガさん そうですよね。話を聞いていたら、私も塘さん家に遊びに行きたくなって、そのまま居ついてしまうかもしれませんからね。是非是非、ラジオをお聞きの皆さんもこちらですね、チェックして頂きたいと思います。こちらですね、平山建設株式会社、問い合わせの番号は0476-23-1111、0476-23-1111となっておりますので、是非、こちらチェックしてみてはいかがでしょうか。ということで今回は2コーナーに渡って平山建設さんでお家を建てられた、塘 浩二さん、聰子さんご夫妻にお越し頂きました。ありがとうございました。

塘さん夫妻 ありがとうございました。

ヤスガさん 今日は本当にぎやかにお届けしましたが、最初のコーナーに登場して頂きましたご夫妻、塘さん、塘 浩二さん、聰子さんですけれども、やっぱり放送の最中だけでなく、裏でも、打合せの最中でも、本当に平山建設さんで良かったとおしゃってました。なにやら社長さんから建設会社さんを選ぶ際のポイントというのを教わったらしいです。やっぱり自分の住みたい家っていうのはありますよね。そういうものをイメージしたときそにその家を作ってくれる、機能とかデザインとか色々ありますけれども、そういうのを酌んでくれて、そしてより良い方向に編成してくれる、誘導してくれる、そんな会社がいいよって言われたらしいですけれども、まさに、塘さんご夫妻に関してはそれがこの平山建設さんだったとすごく実感されていたみたいですね。こちら、造られたのがコンクリートの鉄筋コンクリートの住宅ですけれども、シェル太と呼ばれる工法です。内外の断熱が素晴らしいというもので100年住宅ともいわれているそうです。だからこそ鉄筋もすごいし、防音もすごいし、高断熱、高気密、保温性がすごいということでそれによって家自体も丈夫だけれども、逆に家を長持ちさせるという工法でもあるのです。だからこそ、自分たちの代だけでなく、子供やお孫さんに関しても、ずっとずっとこの家で快適に暮らしていくって欲しいといっていました。本当に住んでいる人の言葉ってすごいですね。